

5/29(金)第3回検討懇話会 発言要旨

第3回検討懇話会 > 発言要旨（全体）

姫路の10年後のあるべき姿更新案について、全体構成・政策案の粒度・メリハリの付け方についてご意見をいただいた

5/29（金）検討懇話会 主な発言

全体構成

- 更新案は綺麗にまとまっており、**全体として見やすくなった印象**である。
- 一方で、中期方針における**8つのカテゴリの番号が、重要度や優先順位を示すものかどうか**が分かりにくいいため、整理の意図を明確にする必要がある。

政策案の 粒度

- 政策案は一定の具体性があるものの、資料全体の粒度感と比較すると、**もう少しハイレベルな整理に留めることも考えられる**。現状施策をベースにしつつ、今後、政策案の粒度を調整していく必要がある。
- 政策案については、単に施策を並べるだけでなく、**支援の枠組みや内容をより深掘りすることが重要**である。次回以降、政策案の内容の是非も含めて具体的に議論する必要がある。

メリハリの 付け方

- 10年後は予測が難しく、飛躍的な発展の可能性もあるため、将来の可能性に含みを残しつつ、**直近5年間で何に取り組むべきか**を明確にすることが重要である。
- 総花的な整理では重要度が伝わりにくいため、「挑戦と新たな価値の循環」を意識し、**政策全体にどのようにメリハリを出すか**を検討する必要がある。

第3回検討懇話会 > 発言要旨（カテゴリー別）



主に、人材／イノベーション創出／PR戦略のカテゴリーについて、姫路ならではの強みを活かした具体化の方向性についてご意見をいただいた

5/29（金）検討懇話会 主な発言

人材

- 姫路の若者は高校生までが中心という印象があり、大学生をまちに増やすことが、にぎわいや魅力あるまちづくりにつながる。大学生を含めて、働きやすく・暮らしやすいまちであることを発信する必要がある。
- 産業集積度は学生がどれほど集まるかにも影響するため、道路整備や駅周辺開発だけでなく、**産業集積を高める取組も重要**である。
- オープンファクトリーは、若い人が早い段階で地元企業を知る貴重な機会であり、姫路市がより主体的に関与・発信することも検討すべきである。

イノベーション創出

- 自動運転や空飛ぶクルマなどの**先端技術は、地域交通や観光二次交通の課題解決につながる可能性**がある。一方で、導入には安全性・投資規模・対象エリア・福祉政策としての位置づけなど、実装に向けた検討課題が多い。
- 交通に関しては、姫路駅を中心とした放射状の移動はある一方、**横の移動が弱い**ことが課題である。
- 民間施設のシャトルバスやローカル交通を活用し、**姫路城を起点に播磨地域の周遊を促進する視点も必要**である。

PR戦略

- PR戦略では、**誰に対して、どのような姫路の魅力を、どのように発信するかを明確にする必要がある**。若者に姫路の良さを体験してもらい、若者自身の力を借りて魅力を発信することも有効である。
- **観光客が事前に検索・検討する段階で、姫路市内の周遊ルートを提示**できれば、姫路城以外の観光資源への誘導につながる。例えば、酒蔵見学後の交通手段が不足しており、周遊を促すための移動手段の確保が課題である。
- **姫路の住みやすさは重要なPR要素**であり、住宅価格面での優位性や市民が感じている暮らしやすさを踏まえ、住み続ける人への支援や定住促進につながる発信を検討してはどうか。